

十 コルネリオ会

(キリスト者自衛官の会)

ニュースレター №22

1978年4月

* 伝 道

「神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである」

(ヨハネ 3-16)

関東地方で朝ラジオのチャンネルを回すと6時25分から45分までの20分間、キリスト教の放送が流れて来る。しかしよく聞くと、その20分間はコマーシャルをはさんで三つの放送であることがわかる。

我々クリスチャンが聞けば、これはキリスト教の三つの教派の放送であることがわかるが、一般の人が聞いたら、その区別がつかないかも知れない。しかしどの放送も良いお話であるし、又聖書のみ言葉、又はその解説に接する事になる。従って「宜べ伝える者がなくて、どうして聞くことがあろうか」(ロマ10-14)というみ言葉は一応達成されたことになる。又土曜日には朝9時から10時までテレビを通してキリスト教の放送が流れる。アメリカの一牧師が篤信の家族と共に、世界中にわたって伝道している場面を、一時間にわたって放映しているわけで、若しこの牧師が日本人であったら、日本はも早キリスト教国になったのではないかと錯覚しそうである。外観上はそのように見えるが、しかしそれで日本がキリスト教国になったわけではない。基督教年鑑を開いてみると、そこには日本の昨年度の教勢が書かれている、日本全国には数多くの教会、教団がそれぞれ悪戦苦闘して、主のみ名の宣教の為に労しておる事が一目でわかる。その

2

ような人達には甚だ申訳ない言い方だが、しかし統計という立場から見れば、数多い教団の中で信徒一万人を超えるものは、誠に数える程しかない。宣教はむづかしいとか、日本人にキリスト教は適さない等と言ってしまう、それまでだが、しかし福音は電波を通して多くの大衆に届いている事を考えるならば、我々先に救われた者としては、も一度我々自身の生き方に思いを致す必要があるのではなからうか。我々はそれぞれの教会に所属して礼拝を守っている。各教会にはそれぞれの伝統があり、又その指導者にはその人特有の霊的な賜物があるであろうし、独得な霊的体験があるかも知れない。そしてその体験のもとに他の人にならぬ指導が出来るわけである。しかしその特異性をあまりに重視するならば、他の人に対してみ言葉の素直な理解をさまたげられることともなり、又クリスチャンの唯一の教範である聖書の一部だけを強調することともなる。

教会の使命は特殊な人達だけを導くのではなく「すべての国民を弟子として」導かなければならぬわけである。「願い求めるものはなんでもいただけるのである」(Ⅰヨハネ 3-22) というみ言葉があるからと言って、必要な事は祈ることだけでよい、という考え方には問題がある「主なるあなたの神を試みてはならない」(マタイ 4-7) のであり、我々は主から頂いている、又は預っている賜物は十分に用いなくてはならない。カナの婚礼の奇跡が起きる前には、六つの大きな水がめに水をいっぱい入れる必要があった。(ヨハネ 2-1~11)

テレビの放映に接する人の数は、教会に通っている人の数にくらべたら桁違いに多い事と思われる。そしてそれらの人達が福音に勧心を持つか、反撥を感じるかは、多分にその回りに居るクリスチャンの言動によるのではなからうか、その時の応対がその人を将来教会に導くか否かを決定することになる。テレビの放映が教会の行事と対立するとか関係がないと考えるのは短見である。テレビで語られるのは言わば一般論であり、それだけで独立するという事はあり得ないし、若しあったとすれば変則であろう。その地域に対し又個人に対して特有な事は夫々の教会で語られればよいし、

又語られなければならないので、テレビで語られる事が誤っていないかぎり、又多少自分達の主張と異なっても教会ではそれを修正してでもこの世に流れ出ている放送を活用しなければならない。

主のみ旨でなければ、又聖霊によるのでなければ、イエスをキリストと告白する声が世間に流れるはずはないので、我々はこの声を聞き霊の交わりを通して、我々自身の福音伝道の使命に結びつける必要がある。これは放送だけに限られるわけではなく、あらゆるメディアを通して世に流れている福音の声、聖霊のひそかな声に対して聞き耳を立て、時と所に応じて応答する必要がある。

各地に散在しているキリスト者自衛官は夫々の地でその職務を通して正しく主の道を歩むためには、その所属する教会に於て信仰にはげむと共に、この世に流れている福音の声に、又世界中にのべ伝えられている伝道の響きに耳をかたむけつつ、地の塩としての務めを果たすことが必要である。

＊ “ Know your Bible ” （第9回）

著者 W. C. Scroggie

訳者 宮崎 健男 （金沢フィラデルフィア教会牧師、防大8期）

福音書の序論

題

福音書が、マルコ、マタイ、ルカ、ヨハネと呼ばれるのは、一つの福音に実際4つの記録があるからである。福音 (gospel) と言う言葉は「良いおとずれ」の意味であるが、それがこの記録の範囲、内容、価値を充分に示している。と言うのは聖書の全記録は、ニュースではあるが、全てが良いニュースとは限らないからである。この良いおとずれとは、神がご自身を人類のあがないのために、時間の中に又肉に於いて顕現されたことである。四福音書の各々は、この良きおとずれを記録している。

起源と典拠

これらの書物のおこりについては新約聖書の難問の一つであり、新約聖

書批評学者に委ねなければならない。我々の福音書の背景には、それらが引き出された資料があったことはほとんど疑い得ない。

(ルカ1の1-4参照)

マタイ、マルコ、ルカに共通な資料があり各福音書はそれぞれ特有の資料も持っている。

相違はあるが、これらは必然的な矛盾ではない。著しい相違は必ずしも矛盾を意味しない。最初の三つの記録は共観書と呼ばれ、それらが同じ一般的な観方又は概略を持っていることを意味している。第四番目の記録は、実地検証的であり、その観方も時期も全く異っている。

時期と順序

これらの記録の時期を正確に決めるのは不可能だが、一番早いものでも紀元後50年以前ではなく一番遅いものでも紀元後95年以後ではないと言い得るであろう。

疑いもなく最初に出たのはマルコであり、最後はヨハネである。そして他の二つでは、マタイがルカよりも前である。

著者

これらの記録がその名を持つ人々によって書かれたことを疑う理由はない。即ち取税人のマタイ、マリヤの子マルコ、「愛された医者」ルカ、漁師のヨハネである。第四番目の福音の著者に関しては多くの批評が持ち上がったが、ヨハネに対するウエストコット監督の証拠は反ばく出来ないものである。

性格

福音書を文学として分類するのは困難である。それらは通常私たちが理解する様な歴史や伝記でもなく、しかもそれらはイエスの生涯、教え、わざに関する多方面に亘る覚え書き以上のものである。多分回顧録が何よりも良い名称であろう。

数と特色

この点に於いて書かれて来た物の全てが有益なものばかりではなく、い

くつかのものはばからしいものであった。正統として認められた福音書の数はいつも4つであった。紀元後150年にはシリヤ人タティアンがシリヤ語訳から、それら四福音書を調和的に整頓しそれが存在する様になった。

4つある理由又唯4つだけである理由は大切であるに違いない。この意義は、キリストが人類の必要に対する答であると言うことから見出さねばならない。即ち、ユダヤ人に対してはマタイ伝、ローマ人に対してはマルコ伝、ギリシャ人に対してはルカ伝、又教会に対してはヨハネ伝の中にその必要があつて、その答はキリストで、彼はマタイでは統治者、マルコでは僕、ルカでは人間、ヨハネでは神として描かれている。これらの陳述は総括的であり、決定的である。最初の二つは公文書的であり、最後の二つは個人的である。

これらの相違と共に、何故唯四つしかないのかを理解するに役立つ、これらの記録の他の特色もある。マタイは特に過去を語り、又マルコは現在をルカは未来をヨハネは全て永遠を語っている。エゼキエル書のケルビムの姿は、これらの記録の中に反映されている象徴的な意味を持っている。即ち、マタイはししの様であり、マルコは牛の様であり、ルカは人間の様であり、ヨハネはわしの様である。

マタイは説教者であり、マルコは、記録者、ルカは歴史家であり、ヨハネは哲学者である。

価値

あがない主を知る上において我々は全くこれらの四つの記録に依存している。もしこれらが記されていなかったとしたら多分、教会は生きながらえなかったであろう。

人間の著者や資料の背後には、疑いもなく神の監督的な摂理がある。これらの無学な人々は無意識の芸術家であつて、神の御霊に導かれ、彼等も又誰一人創造することの出来なかつた一つの人格を描いたのである。これらの簡潔なパンフレットの価値は測り知るべくもない。

これらの福音書の各々についての簡潔な紹介の中では特に次の七つの項

目が述べられるであろう。著者、読者、記録の場所、日時、文体、目的、特色である。これらの特徴は、いくつかの信頼すべき手引と一緒に記録を注意深く読むことによって、詳細に突き止められねばならない。

(次回へ)

❁ 日米合同クリスマスパーティー

53.12.17(土).18(日)の二日間にわたって東京都多摩町(国鉄南武線南多摩駅下車)にある、米空軍のレトリートセンターに於て日米OCU合同のクリスマス集会を開催した。そのスケジュールおよび概要はつぎのようであった。

スケジュール

17日(土)

- 13:00 ~ 15:00 チェックイン
- 15:00 ~ 15:30 開会祈禱、自己紹介
- 15:30 ~ 17:30 子供のためのクリスマス会
- 17:30 ~ 19:00 夕食
- 19:00 ~ 20:00 キャロル
- 20:00 ~ 20:30 子供就寝
- 20:30 ~ 21:30 メッセージ(ゲスト: Ms. Nell Kennedy)
- 21:30 ~ 22:00 懇談

18日(日)

- 07:00 起床
- 08:00 ~ 09:00 朝食
- 09:30 ~ 10:30 礼拝
- 11:00 ~ 11:30 プレゼント交換
- 11:30 ~ 12:00 交歓
- 12:00 ~ 13:00 昼食
- 13:00 ~ 13:30 チェックアウト

1) 日米合同クリスマスパーティーはクリスマスツリーの飾り付けから始まった。三三五五集まって来る日米両国の家族には子供連れが多く、会場にしつらえたもみの木にはどンドン飾り付けが進む。各自思い思いに飾るのだが、日米の子供達が話し合いながら(子供同志話しがわかるらしい)何とかまとまっていった。日米とも前に会って知り合った人が多いので、お互に紹介し合ったりしてなごやかなうちに予定は進行していった。

2) 15:30 から幹事の指示で、子供のためのクリスマス会が始まり、大人は雑談しながら回りで見ていることになる。米側 Emerson 兄他、日本側森田兄他の指導で子供達の遊びが始まる。始めに打合せてあったものと見え、日米とも言葉の不自由な点は笑顔で何とか意志が通ずるらしく、歌を歌ったり、何やら遊戯をしたり、折紙や切紙をしたりで子供達は結構夢中の中である。森田兄の指揮ぶりもあざやかで子供達もよく言うことを聞いている。小さな子供達に2時間という遊び時間はかなり遊びがいがあるらしく、そろそろ皆あきて来た頃夕食の時間となった。

3) 夕食後はクリスマスキャロルを日米両語で合唱ということで、メロディは同じなのに2部合唱のような感じで、ここに国際的な感じが出ていた。

4) 20:00 子供就寝の時間となり、それぞれの親が子供達を寝室につれて行った。親達ほもどって来たが、しばらくすると寝つかれないのか子供が会場にもどって来て、親が再び寝室につれて行くという状景もある。出て来るのはどうも日本人の子供よりも米国の子供が多い、しかし割合聞き分けが良く、いやがって騒ぐような子供は居ない。子供対親の関係はどここの国でも同じようである。

5) 20:30 から Ms. Nell Kennedy のメッセージがあった。Kennedy 姉は東京在住のクリスチャン写真家でジャーナリストで、雑誌「Christianity

Today」の記者であり、又他に幾つかのキリスト教書の著者でもある。今晚は姉が最近旅行して来た東南アジア及び韓国に於ける教会の様子や色々な体験談をして下さった。特にインドネシアと韓国に於ては教勢が急激に進展し、それにともなって数多くの不思議な事や奇蹟が起っているとの事であった。その一つに或る伝道者が雪の山中で日が暮れ野宿を余儀なくされた時、寒さの中で突然目がさめてみると暖たかいものが自分の隣にあるので、よく見るとそれは虎であった。そして夜が明けると共にその虎は何もしないで出て行ったとの事で、このような話が次から次へと語られるので、始めは半信半疑に思えたが、姉があまりに真面目に語られるので、その不思議さにこの世の思いを忘れた。

6) 第2日目は起床、朝食の後09:30から会堂で聖日礼拝を行った。森田兄司会、森田姉奏楽で始められ、両国の祈禱の後、クリスマスメッセージは今井兄が担当、米人のため山口兄が通訳をして下さった。マタイ福音書2章1～15節をとおし、異邦人の博士達の真理に対する熱情、ヘロデ王の不安、予言の取扱い、予言の成就、未だ成就されない予言の待望、人間のあやまち等、これらを通して神がどのようなご計画を、どのように成就されようとしておられるか、神のご計画を人間が変更しようとする時何が起るか、そして神の愛は何を指し示しているか、等についてのメッセージで、新たにクリスマスの意義を思うことが出来た。日米合同の礼拝式は祝福のうちに終了した。

7) プレゼント交換に続いてしばらくの間交歓の時を持ち、昼食の後再会を約して二日間にわたる意義ある集会を終ることが出来た。

出席者

日本 武田貴美兄夫妻(会長、元陸将)、清水善治兄夫妻(元1海佐)、
森田忠信兄夫妻子供2(3空佐)、目良恂兄夫妻子供2(3空佐)、

山口利勝兄夫妻子供2（3空佐）、下桑谷浩兄子供1（中央病院）、
安藤正子姉（空1補）、岡村紀子姉（空医実）、今井健次兄夫
妻（防大）

米国 Emerson 少佐夫妻 子供2、Vollmer 大尉夫妻 子供1、
Greshel 中佐夫妻、Meyer チャブレン夫妻 子供3（17日だけ）
Kennedy 姉、Hedeem 姉、Goodman 姉 子供1、Sides 中尉（沖
縄海兵隊）

（今井記）

✳ 通 信

○ 藤田勝男兄（飛教団・2空佐）

人間の自宅には月に一、二度しか帰っていませんので、浜松で聖日を
過す時には、浜松の同盟、中沢教会に出ています。仏子では滝原さん
とご一緒になれ、紹介して頂きました。本年もこの会が祝されますよう
祈り、またよろしくお導き下さい。

○ 武内哲史兄（海幕技術部・3海佐）

コルネリオ会誌楽しみに読ませていただいています。仕事の方がやや
忙しいので、閑居せず、従ってすこぶる求道的な生活になっているよう
に思います。

○ 目良 恂兄（空幕調査2課・3空佐）

新年を迎え、今年は出来るだけ日曜の礼拝に出席しようと努力してい
ます。新年礼拝時、牧師先生の説教に感銘を受け、心が新たになりました。
た。

○ 山口利勝兄（空幕運用課・3空佐）

空幕へ来てから約1年、日米防衛協力関係を担当しています。長男は

4月から小学校、長女は年長組の幼稚園、皆健康に恵まれています。

○ 滝原 博兄 （入間プログラム管理隊・3空佐）

仏子教会員である藤田2空佐ご一家と交わりをしています。3人を紹介します。柴田1空曹・沼倉1空曹・細萱空士長。

○ 小森邦治兄 （伊丹・会計監査隊・1陸尉）

監査官勤務4年目、そろそろ最終ラウンドも近づきましたので、本来の職種（通信）へ戻りたく準備中です。机に向う時間の多い勤務ゆえ、余暇はトリム運動に心掛けております。

○ 山下貴久兄 （3空団・器材小隊長・3空尉）

52・12・17 結婚しました。彼女の父が陸士60期出身の司法書士で、その同期生の私の上司の紹介です。結婚式は日本キリスト教団豊山教会で日本キリスト教団宇治教会の高塚勝牧師の司式で、制服礼装での挙式でした。

28.4.

○ 藤原道明兄 （留萌・26曹連・2陸尉）

早いもので留萌勤務4年になります。留萌の街にも郷土愛が感ぜられるようになりました。勤務の合間に連隊内でバンドを結成して、転勤までひとり立ちの出来るバンドにしようと張切っています。今年は今までで最も暖かい正月を親子3人で迎えています。皆様との再会および御来留を楽しみにしています。

○ 勝山昌之兄 （北千歳・102大隊・1陸士）

今やっと新約聖書を読み終り、今度は旧約聖書を中心に読んでおります。だんだんと聖書の意味がわかりはじめ、自分の靈魂が目に見えて高くなったと感じます。又営内班の人々ともうまくいくことができ、これ

も主の御力と信じ感謝にたえません。あとは上司との人間関係や、救いがなく苦しんでいる人々に、救いの手をさしのべることができるようにしていきたいと思っています。「わたしたちは、善を行うことにうみ疲れてはならない、たゆまないでいると時がくれば刈り取るようになる、だから機会のあるごとに、だれに対しても、とくに信仰の仲間に対しては善を行なおうではないか」(ガラテヤ・6-9) 献金は部隊内で郵便振り込みができることがわかりましたので、これからは振り込みをしていきたいと思えます。

- 今村和男兄 (防大教授)
目下ペテル聖書研究に参加しており、この三月で一応卒業の見込です。
- 中山ゆみ子姉 (防医大・看護学生)
防医大、看護学生Ⅱ期生として勤めております。クリスマスには母教会(静岡インマヌエル教会)で礼拝を守りました。
- 市川武功兄 (1空挺団・3陸曹)
3月をもって除隊し、いのちのことは社に勤務することに内定しております。
- 島崎 朗兄 (下総・51空・元1海曹)
昨年6月退職しました。医療伝道をしたく現在医学部をめざして、働らきながら受験勉強中です。医学部に入れるかどうかわかりませんが、とにかくがんばってみようと思えます。
- 藤田喜敬兄 (元2陸佐)
定年退職6年経過しました。月～金は土浦市の会社の世帯持独身寮で、土、日は朝霞市の自宅で、仕事は労務担当業務をやっております。余暇

に土浦と浦和の両道場で合気道の指導をしております。教会は浦和の教会に毎週行っております。

- 静岡インマヌエル教会、松村牧師から教会週報を送って頂いております。この教会には前述の勝山昌之兄と中山ゆみ子姉が属しておられ、この週報を通してお二人の消息もわかり感謝です。

* 昇任、転勤、住所変更等の場合はお知らせ下さい。

* コルネリオ誌原稿募集、論説、あかし、近況、何でも結構です。

コルネリオ会事務局

(日本OCU)

横須賀市走水一丁目 防衛大学校

応物教室 今井教授気付

に土浦と浦和の両道場で合気道の指導をしております。教会は浦和の教会に毎週行っております。

- 静岡インマヌエル教会、松村牧師から教会週報を送って頂いております。この教会には前述の勝山昌之兄と中山ゆみ子姉が属しておられ、この週報を通してお二人の消息もわかり感謝です。

* 昇任、転勤、住所変更等の場合はお知らせ下さい。

* コルネリオ誌原稿募集、論説、あかし、近況、何でも結構です。

コルネリオ会事務局

(日本OCU)

横須賀市走水一丁目 防衛大学校

応物教室 今井教授気付